

十和田市立 新渡戸記念館だより

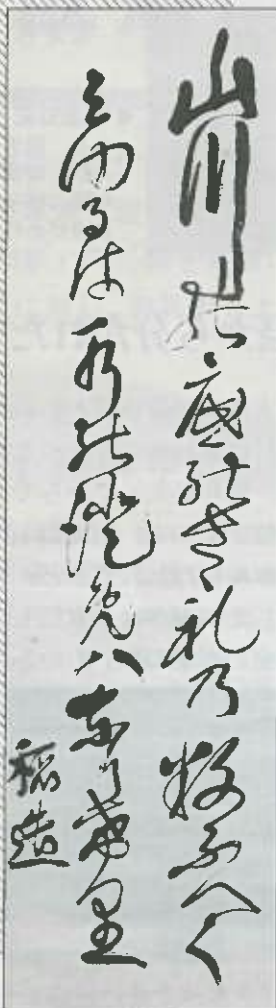
新収蔵資料

新渡戸稲造 直筆の書

「山川の底にある小石が、数えられるほどに見て取れるのは、川の水が澄みきっているからなのだ」という意味で、「川の水」は「人の心」を暗示し「澄みきった心は物事をはっきりと把握することができる」という意を含んでいます。「生きる上での心のありよう」を重要なテーマの一つとした稲造思想をよくあらわす書です。

この書は京都で見つっていますが書かれた場所や年代などは分かっていません。明治36年(1903)稲造は41歳の時京都帝国大学法科大学教授となり、その後3年間京都に暮しています。また稲造と親交の深かった佐伯理一郎や竹内栖鳳も京都に住んでおり、京都で揮毫したものとも考えられます。

山川の底のさざれの数ふべく
みゆるは水の澄めばなりけり



縦二二・〇×横三三・五 (cm)



京都帝国大学教授時代の新渡戸稲造
(花巻新渡戸記念館提供)

「武士道」発刊100周年を迎えて

国連大学で新渡戸稲造シンポジウム開催

— 平成12年10月14日 —

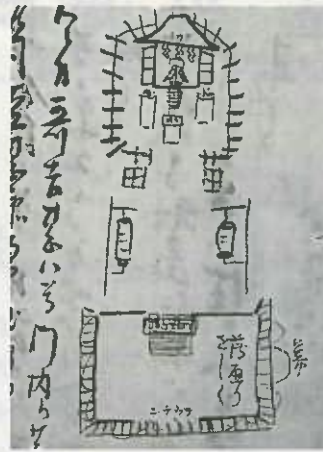
今年新渡戸稲造の著書「Bushido-The Soul of Japan」(英文「武士道」)発刊から100周年を迎え、各地で記念イベントが開催されています。10月14日には国際連合大学(東京渋谷区)主催のシンポジウム『真の国際人がいた:新渡戸稲造の市民像と国際社会』が開催されます。シンポジウムではパネリスト(東京高等検察庁検事長 原田明夫氏、関西外国語大学教授 佐藤全弘氏、癌研究所実験病理部長 樋野興夫氏、外務省北米局参事官 河野雅治氏、アートフロントギャラリー代表 北川フラム氏)による講演や参加者とのディスカッションが行われ、新渡戸稲造の事績の現代的意義を考えます。このシンポジウムに対して当館も協力機関となっています。一世紀を経て、今新渡戸稲造博士の先見性が再認識されています。



「武士道」執筆当時の新渡戸稲造(37歳頃)

にとべつとう 9月27日
新渡戸傳翁命日祭

9月27日午前10時30分から太素塚境内にて三本木原開拓の祖・新渡戸傳翁の没後129年命日祭が開催されました。新渡戸傳は明治4年(1871)三本木にて78歳の生涯を閉じ、太素塚に埋葬されています。太素顕彰会会長・中野渡春雄市長をはじめとする参列者が傳の墓前に献花を行い、生前の遺徳をしのびました。



明治時代にはさらに鶉や雀などの小鳥、鯛などの魚、栗や柿、銀杏や蕎麦、わらび、マルメロなどの季節の食べ物が墓前にそなえられています。

◀「公私日記」(新渡戸七郎)より、明治5年4月27日命日祭(太素祭)時の太素塚祭壇の様子。当時墓石には屋根がかけられていた。

◆ ◆ 命日祭のはじまり ◆ ◆

明治5年(1872)4月17日、太素塚そばに拝殿ができあがり、命日である27日にはじめて命日祭が行われました。またこの年は祥月命日の9月27日にも命日祭を行っていますが、当時名前は「太素祭」といい、前日の26日から2日間にわたって行われていました。芝居興業などもあり、これが現在の太素祭(5月3~5日)の原型となりました。

記録によるとはじめての命日祭は2日日雨にたたられ、4月27日の芝居興業は太素塚から澄月寺に場所をかえ行われました。多くの参拝者があつまり大変にぎわったことが記されています。また、太素塚のまわりには幕がはられ、提灯がたてられ、祭壇にたくさんの供物がそなえられました。現在も命日祭にお神酒や果物を供えますが、

◆ ◆ 命日祭から分かれた太素祭 ◆ ◆

現在のように太素祭が命日祭とわかれ、稲生川上水記念日(5月4日)にあわせて春まつりとして行われるようになったのは、昭和に入ってからです。太素祭は命日祭から派生した祭ですので、昭和40年代頃までは太素塚で盛大に武道の奉納が行われるなど、慰霊祭の色合いが濃く残っていました。現在は太素祭も春まつりのイベントとなり、娯楽の要素の強いものとなっています。



◀ 昭和29年5月の太素祭で行われた故場所清氏による稲生川土地改良区により十次郎墓が建立された。



記念庭園の管理を監督する庭師の品田淳二さん

日本の心を伝える新渡戸記念庭園

～カナダ ブリティッシュ・コロンビア大学キャンパス内～

昭和8年(1933)にカナダで亡くなった新渡戸稲造を記念し、昭和35年(1960)カナダ・バンクーバーのブリティッシュ・コロンビア大学構内に「Nitobe Memorial Garden」(新渡戸記念庭園)が造られました。この庭園をおとずれた日本人は、口々に「本物の日本庭園だ」と言います。外国で「日本庭園」と称するものはたいてい「日本風庭園」で、日本人にとっては違和感を感じる人が多いからでしょう。この庭園の設計者は千葉大学森欽之助教授で、1992~3年に行われた大改修は日本造園設計の榊野俊明さんが行いました。そして現在毎日の管理を監督するのは庭師の品田淳二さんです。庭内にある茶室では、毎週末に地域の日本人ボランティアの方たちがお茶会を開いているそうです。外国でありながら「日本の心」を感じられる場所です。機会がありましたら、ぜひ一度ご覧ください。



★新渡戸記念庭園ホームページ <http://www.hedgerows.com/UBCBotGdn/Gardens/Nitobe1.htm>
 (ブリティッシュ・コロンビア大学植物園ホームページ内)

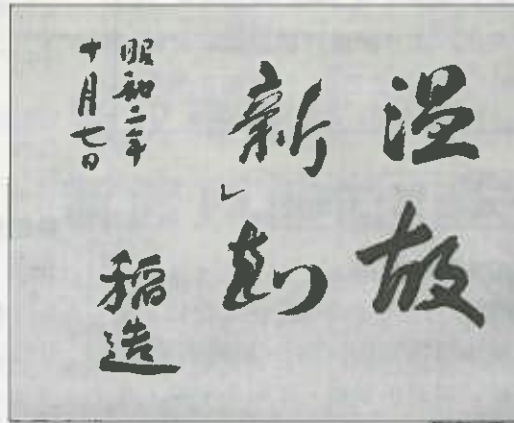
平成12年8月9日 学芸員 佐々木美恵子 取材

特集

新渡戸稲造の書

「温故知新」

このたび、青森市在住の^{と きつじ}土岐理さんより新渡戸稲造が三本木（現十和田市）で揮毫した書「温故知新」の掛軸を寄贈いただきました。ご厚志に対し、お礼申し上げます。



◀縦32.0×横47.0(cm)

掛軸を寄贈頂いた
土岐理さん（土岐重機社長）



日付からわかる 十和田市との関わり

この書は現在掛軸となっていますが、画帳に書かれていたのをはがして軸装したものです。掛軸には珍しく年月日（昭和二年十月七日）が付記されているのは、もともとが画帳であったためと思われます。

昭和元年（1926）稲造は国際連盟事務局次長を退任し、翌2年に帰国しています。そして同年10月には山形県赤湯や岩手県盛岡市とともに三本木（現十和田市）に足を運び、10月6日三本木の安野旅館において開かれた北大関係者の懇親会に出席しました。翌7日には三本木小学校で講演をしています。この書はその同じ日に書かれています。当地では昭和4年（1929）、16年（1941）の2度大火があったため、博士の書の多くが焼失しています。今回の寄贈によって火災をまぬがれた書の一つが里帰りすることとなりました。



昭和2年10月6日太素塚拝殿前での記念写真。拝殿は、現在記念館のある場所にたっていた。市内稲生町桜田恒郎さん提供のこの写真の台紙には「新渡戸稲造博士墓参の為昭和二年十月六日御来町直ちに太素塚参拜墓前において撮影」と記載されている。

稲造の思想と人柄を 伝える書

「温故知新」とは孔子の『論語』（為政第二の十一）の一節「故きを温ねて新しきを知る、もって師となるべし」からできた言葉で、昔の物事を吟味して、そこから新しい見解を得ることをいいます。稲造は著作『編集余録』『随想録』などに温故知新をテーマとしたエッセイを書いており、多くの著作が歴史を紐解き、古き伝統、文化に目を向ける事で、現在を考える手がかりとする手法がとられています。代表作『武士道』もまたその手法によって当時の日本人の道德規範を明らかにしたもので、この言葉は稲造思想の一端を良くあらわすものです。また、この書では「温故新知」として「新」と「知」の間に返り点を打っていますが、正しくは返り点がつきません。稲造の思想だけにとどまらず、こだわらない人柄も感じられるこの書は、ユニークな一品といえます。



6日夜、三本木（現十和田市）安野旅館にて開催された北海道大学関係者との懇親会の記念写真。新渡戸稲造と札幌農学校時代の同級生、北大農学部部長・南鷹次郎（中央）はこの時10年ぶりに再会した。

太素顕彰会の新役員紹介

- 太素顕彰会 理事 柿本 舒 [十和田市町内会連合会会長]
- 太素顕彰会 評議員 畑中 則久 [旧十和田青年会議所理事長]

ありがとうございました

土岐理さん（青森市在住）より新渡戸稲造直筆掛軸「温故知新」をご寄贈いただきました。（詳細3面）

関連情報

● 7月1日～9月30日の来館小学校

〔十和田市〕三本木小学校・ちとせ小学校・南小学校・深持小学校〔八戸市〕根城小学校・湊小学校・柏崎小学校・桔梗野小学校・鮫小学校・城北小学校・江陽小学校・八戸小学校・白銀小学校〔三沢市〕古間木小学校〔五戸町〕切谷内小学校〔六戸町〕大曲小学校〔福地村〕福地小学校・福田小学校〔新郷村〕川代小学校・西越小学校

● 『水土を拓いた人びと』よりの抜粋論文英訳集に館長論文掲載

〔株〕農業土木学会では、ICIDアジア地域ワークショップが東京で開催されることを機に、外国人向けのガイドブック『Historical Heritage: People Who Promoted Land and Water Resources Development in Japan』を出版しました。



これは農業土木学会創立70周年記念として全国の開拓事業をまとめ出版した『水土を拓いた人びと』に掲載の論文76篇より10篇を選び英訳したのですが、館長も論文「三本木原開拓の祖・新渡戸傳」を寄稿しており、10篇に選ばれ英訳掲載されています。

● 十和田稲生ライオンズクラブ新渡戸稲造記念碑建立

十和田稲生ライオンズクラブは創立20周年記念事業として「新渡戸稲造記念碑」を太素塚境内に建立し、9月24日除幕式が行われました。

● 十和田市民大学講座で志村史夫教授が新渡戸稲造の著書「武士道」について講義

9月28日午後6時30分から十和田市民文化センター視

聴覚ホールにて志村史夫教授（静岡理工科大学教授／総合科学研究機構・文明研究所所長）による講義「いま“武士道”を読むー21世紀の日本人へー」が開催されました。

活動報告

● 館長を講師とする講演会

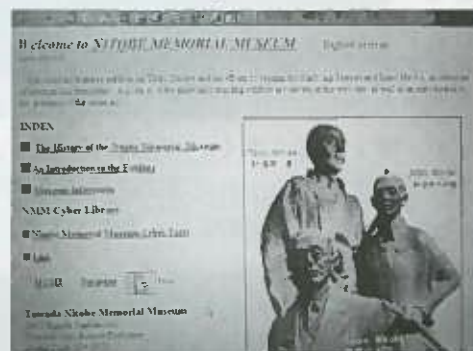
- 6/1 柏葉大学（七戸町中央公民館）
- 8/24 七戸ロータリークラブ（七戸商店会協同組会2F）
- 9/22 十和田市準倫理法人会（和幸ホテル）

● 平成12年度青森県博物館協会ならびに日本博物館協会東北支部総会・研修会（青森市浅虫）に館長出席

9月7～8日青森市浅虫において平成12年度青森県博物館協会、日本博物館協会東北支部総会・研修会が開催され館長が出席しました。

● 新渡戸記念館ホームページに英語バージョンと携帯電話端末対応ページを追加

国際交流協会翻訳ボランティアスタッフの協力により新渡戸記念館ホームページに8月31日より英語バージョンを追加しました。また、9月8日からはi-mode、ezwebなどの携帯電話端末対応の簡易ページ「にとべ記念館ぶちWeb」を追加し、記念館最新情報、利用案内、簡易事典などを掲載しています。どうぞご利用下さい。



英語バージョンのトップページ

● 9月27日に命日祭を開催（詳細2面）

● 新渡戸記念館の英文カラーパンフレットができました

6月に十和田国際交流協会の協力で英文パンフレットが完成し、モノクロコピーでの配付サービスを行っていましたが、カラーで提供することとなりました。

編集後記

「武士道」発刊100周年の年に稲造シンポジウムなどが各地で行われ、意義深いことと思います。11月17日「外交の窓 in 十和田」の開催も稲造ゆかりの地に起因しています。町興しに真剣に活用すべき時なのではないでしょうか。

発行 太素顕彰会
 十和田市立新渡戸記念館
 〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1
 TEL (FAX) 0176-23-4430
 E-mail: nitobemm@hi-net.nc.jp
 http://www.towada.or.jp/nitobe/
 印刷 有限会社 岩間印刷所